

## 国語科と社会科の合科学習指導案 －松尾芭蕉の文化観への二方向からのアプローチ－

授業者：迫 将倫（国語科）・小田 紘史（社会科）

- 1 実施日時・場所：令和6年2月20日4限目・中学校2階特別教室
- 2 実施科目：国語科・社会科
- 3 学年・クラス：中学校2年B組
- 4 単元名：古典に学ぶ 「おくのほそ道」
- 5 教材：「おくの細道」序文、平泉、立石寺
- 6 本時の目標：松尾芭蕉の「おくのほそ道」に対する思いを探究し、文章で論理的に表現する。

### 7 学習指導計画

「おくのほそ道」の前文から「おくのほそ道」のテーマに迫る（1時間目）

松尾芭蕉が訪れた場所を歴史的な視点から考え「おくのほそ道」のテーマに迫る（2時間目）

「『おくのほそ道』の旅のテーマ」というタイトルで400字程度の文章を書かせる（3時間目）

テキストと歴史の二方向から考える「『おくのほそ道』の旅のテーマ」（本時）

### 8 本時のねらい：

国語科の授業でも、当時の社会あるいは文化的背景について説明することはあるが、それはあくまで補助的なものであり、主たる目的は文章読解にある。そういった断片的な理解に、社会科の歴史的な視点を加えることにより、松尾芭蕉という人物について深く考え、より鮮明に描き出すことができるのではないかと考えた。

国語科ではカバーできない背景的な知識を社会科が補うことで、テキストというマイクロな視点と社会や文化というマクロな視点から多角的に分析することができることが、本単元が国語と社会を合科することでねらう効果であり、合科授業の形で行う理由である。

生徒については、これまでの授業の中で単一の根拠に基づいた主張を文章化する力を身につけてきた。本実践ではさらに複数の根拠に基づいた意見を、論理的な整合性を保ちつつ文章化する力を身につけさせることを技能面における目標として据えている。

## 9 学習の流れ（展開）

学習活動	指導上の工夫・留意事項	評価方法
<p>1. 国語科・社会科それぞれの立場から生徒と同じタイトルで書いた文章を提示する。(8分)</p> <p>2. それぞれの立場に分け、他方の文章への添削を考えさせる。(10分)</p> <p>3. 生徒に添削の内容を発表させながら、論理性についての説明を加えていく。(13分)</p> <p>4. 論理的な説明をするための視点を提示する。(5分)</p> <p>5. 提示した視点を基に自分の文章を推敲する。(10分)</p> <p>6. 本時の学習のまとめをする。(4分)</p>	<p>あえて論理的な飛躍や非論理的な箇所を組み込んだ文章を提示する。</p> <p>授業者もそれぞれの立場に分かれて机間巡視し、内容の把握と補助を行う。</p> <p>生徒の意見を解説しながら、論理的説明の上で重要な部分を明確にする。</p> <p>議論の中から視点を抽出する。</p> <p>机間巡視して学習を補助する</p> <p>修正後の生徒の文章を提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理的かつ適切な批判的検討ができているか。机間巡視</li> <li>・ 論理的な説明とはどのようなものか明確に理解できているか。観察法</li> <li>・ 論理的な視点について深く理解できているか。観察法</li> <li>・ 論理的な視点に基づいて自分の文章に適切な推敲を行うことができているか。机間巡視</li> <li>・ 本時の学習内容について明確に理解できているか。観察法</li> </ul>

## 10 評価規準

- ① 歴史的背景などに注意して古典を読むことをとおして、その世界に親しんでいる。【知識・技能】
- ② 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。【思考力、判断力、表現力】
- ③ 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。【思考力、判断力、表現力】
- ④ 進んでものの見方や考え方について考え、学習課題にそって考えたことを伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】